

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	2020年10月13日
【四半期会計期間】	第2期第2四半期(自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)
【会社名】	株式会社薬王堂ホールディングス
【英訳名】	YAKUODO HOLDINGS Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西 郷 辰 弘
【本店の所在の場所】	岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割426番地
【電話番号】	019-697-8480 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 小笠原 康浩
【最寄りの連絡場所】	岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割426番地
【電話番号】	019-697-8480 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 小笠原 康浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第 2 期 第 2 四半期 連結累計期間	第 1 期
会計期間	自 2020年 3 月 1 日 至 2020年 8 月 31 日	自 2019年 3 月 1 日 至 2020年 2 月 29 日
売上高 (百万円)	56,764	102,017
経常利益 (百万円)	3,217	4,295
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,943	3,122
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,944	3,120
純資産額 (百万円)	23,678	22,168
総資産額 (百万円)	58,639	50,244
1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	98.47	158.19
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—
自己資本比率 (%)	40.4	44.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,315	5,771
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,860	△5,254
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	6,710	685
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	11,124	1,958

回次	第 2 期 第 2 四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年 6 月 1 日 至 2020年 8 月 31 日
1 株当たり四半期純利益 (円)	45.49

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、2019年 9 月 2 日設立のため、第 1 期第 2 四半期連結累計期間に係る記載はしておりません。
5. 第 1 期連結会計年度の連結財務諸表は、単独株式移転により完全子会社となった株式会社薬王堂の連結財務諸表を引き継いで作成しております。

2 【事業の内容】

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社は、2019年9月2日に単独株式移転により株式会社薬王堂の完全親会社として設立されましたが、連結の範囲に実質的な変更はないため、前年同四半期と比較を行っている項目については、株式会社薬王堂の2020年2月期第2四半期連結累計期間（2019年3月1日から2019年8月31日まで）と比較しております。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて発した緊急事態宣言が5月下旬に解除され、経済活動の回復に向けた動きがあったものの、移動制限の緩和に伴い一部では再び感染増加傾向にあるなど先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが属するドラッグストア業界におきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、化粧品及びインバウンド関連商品は引き続き大きな落ち込みが継続しており、巣籠需要で大きな伸びのあった日用品や食品の伸びも鈍化してきました。また、7月の天候不順の影響で季節商品も苦戦しており、業界としては厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、販売価格や品揃えの強化を図り、来店客数及び買上点数の増加に取り組むとともに、小商圏ドミナント出店を推進し、ドラッグストアを岩手県1店舗、青森県1店舗、秋田県2店舗、山形県1店舗、福島県2店舗の合計7店舗を新規出店いたしました。また、岩手県の1店舗を退店し、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は303店舗（うち調剤併設型3店舗、調剤専門薬局2店舗）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は567億6千4百万円（前年同四半期比11.7%増）、営業利益は30億5千7百万円（前年同四半期比50.2%増）、経常利益は32億1千7百万円（前年同四半期比43.2%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は19億4千3百万円（前年同四半期比24.0%増）となりました。

なお、当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいためセグメント情報の記載を省略しております。主要なドラッグストア事業における部門別の業績は次のとおりです。

① ヘルス

医薬品は感冒薬、消毒薬等が伸張し、衛生用品ではマスク、介護用品等が伸張いたしました。調剤も堅調に推移いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比13.5%増加し、118億1百万円となりました。

② ビューティ

化粧品は男性化粧品等が伸張し、トイレタリーではハンドソープやオーラルケア等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比2.9%増加し、85億5千3百万円となりました。

③ ホーム

日用品は洗剤、家庭紙等が伸張し、衣料品ではエコバッグ等が伸張いたしました。バラエティ部門はペット関連商品等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比14.8%増加し、117億1千7百万円となりました。

④ フード

食品は加工食品、日配品等が伸張し、酒類ではビール類、酎ハイ等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比12.8%増加し、245億9千1百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は586億3千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ83億9千4百万円の増加となりました。

流動資産は299億9千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ80億2百万円増加しました。主な増加要因は、現金及び預金が91億6千5百万円増加、新規出店に伴い商品が9億5千3百万円増加したことがあげられます。

固定資産は286億4千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億9千2百万円増加しました。主な増加要因は、新規出店に伴う建物等の有形固定資産の増加が5億1千6百万円あったことがあげられます。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は349億6千万円となり、前連結会計年度末に比べ68億8千4百万円の増加となりました。

流動負債は208億5千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億1千万円減少しました。主な減少要因は、短期借入金の減少が14億円あったことがあげられます。

固定負債は141億1百万円となり、前連結会計年度末に比べ78億9千5百万円増加しました。主な増加要因は、長期借入金が77億3千3百万円増加したことがあげられます。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は236億7千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億9百万円の増加となりました。主な増加要因は、利益剰余金の増加15億9百万円があげられます。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ91億6千5百万円増加し、当第2四半期連結累計期間末には111億2千4百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローとそれらの主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は43億1千5百万円（前年同四半期は47億1千1百万円の収入）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が28億1千7百万円となったことや仕入債務の増加額が14億2千5百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は18億6千万円（前年同四半期は28億7千6百万円の支出）となりました。これは主に新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出が14億3千4百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は67億1千万円（前年同四半期は8億5千万円の支出）となりました。これは、長期借入れによる収入が100億円ありましたが、長期借入金の返済による支出が14億4千1百万円あったことや、短期借入金の純減額が14億円あったこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	61,200,000
計	61,200,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年10月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,740,219	19,740,219	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	19,740,219	19,740,219	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年6月1日～ 2020年8月31日	—	19,740,219	—	100	—	25

(5) 【大株主の状況】

2020年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
株式会社TKコーポレーション	岩手県紫波郡矢巾町大字白沢第5地割 116番地	7,584,000	38.42
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	2,819,900	14.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	905,700	4.59
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICE S LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	746,000	3.78
薬王堂ホールディングス従業員持株会	岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割 426	705,800	3.58
西郷 辰弘	岩手県紫波郡	498,000	2.52
西郷 喜代子	岩手県紫波郡	498,000	2.52
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	287,230	1.46
上遠野 俊一	福島県いわき市	238,800	1.21
伊藤 昭	埼玉県北葛飾郡	230,000	1.17
計	—	14,513,430	73.52

(注) 1. 株式会社日本カストディ銀行の所有株式の内訳は、(信託口) 2,216,700株、(信託口1) 91,600株、(信託口2) 86,800株、(信託口4) 26,500株、(信託口5) 178,700株、(信託口6) 71,600株、(信託口7) 24,600株、(信託口9) 49,500株、(信託A口) 24,400株、(信託B口) 1,800株、(証券投資信託口) 33,400株、(年金特金口) 6,500株、(年金信託口) 7,800株であります。

2. 2019年9月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、レオス・キャピタルワークス株式会社が2019年9月13日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2020年8月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
レオス・キャピタルワークス株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目11番1号	1,256,300	6.36

3. 2020年7月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、SMB C日興証券株式会社及びその共同保有者である三井住友DSアセットマネジメント株式会社が2020年7月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2020年8月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
SMB C日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	33,200	0.17
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズビジネスタワー26階	1,108,500	5.62

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,736,900	197,369	—
単元未満株式	普通株式 3,319	—	1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	19,740,219	—	—
総株主の議決権	—	197,369	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

当社は、2019年9月2日設立のため、前第2四半期連結累計期間に係る記載はしていません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年6月1日から2020年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年3月1日から2020年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,958	11,124
売掛金	1,042	1,116
商品	15,104	16,058
その他	3,883	1,692
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	21,990	29,992
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※ 20,457	※ 20,674
土地	679	679
その他（純額）	※ 1,901	※ 2,201
有形固定資産合計	23,037	23,554
無形固定資産	375	350
投資その他の資産	4,840	4,740
固定資産合計	28,254	28,646
資産合計	50,244	58,639
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,946	13,371
短期借入金	1,400	—
1年内返済予定の長期借入金	2,262	3,087
未払法人税等	758	1,009
賞与引当金	465	548
ポイント引当金	489	549
店舗閉鎖損失引当金	60	55
その他	4,485	2,236
流動負債合計	21,868	20,858
固定負債		
長期借入金	4,550	12,283
資産除去債務	1,291	1,338
その他	364	479
固定負債合計	6,206	14,101
負債合計	28,075	34,960
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,311	2,311
利益剰余金	19,759	21,269
株主資本合計	22,170	23,680
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	△1	△1
純資産合計	22,168	23,678
負債純資産合計	50,244	58,639

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	
売上高	56,764
売上原価	43,724
売上総利益	13,039
販売費及び一般管理費	※ 9,982
営業利益	3,057
営業外収益	
受取利息	11
受取事務手数料	78
固定資産受贈益	14
その他	67
営業外収益合計	171
営業外費用	
支払利息	10
その他	0
営業外費用合計	10
経常利益	3,217
特別損失	
投資有価証券評価損	400
特別損失合計	400
税金等調整前四半期純利益	2,817
法人税、住民税及び事業税	922
法人税等調整額	△49
法人税等合計	873
四半期純利益	1,943
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,943

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	
四半期純利益	1,943
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	0
その他の包括利益合計	0
四半期包括利益	1,944
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,944
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,817
減価償却費	1,154
賞与引当金の増減額 (△は減少)	82
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	60
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△5
受取利息及び受取配当金	△11
支払利息	10
投資有価証券評価損益 (△は益)	400
売上債権の増減額 (△は増加)	△74
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△947
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,425
その他	78
小計	4,989
利息及び配当金の受取額	0
利息の支払額	△10
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△663
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,315
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,434
無形固定資産の取得による支出	△63
投資有価証券の取得による支出	△129
敷金及び保証金の差入による支出	△216
その他	△16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,860
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,400
長期借入れによる収入	10,000
長期借入金の返済による支出	△1,441
リース債務の返済による支出	△14
配当金の支払額	△434
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,710
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	9,165
現金及び現金同等物の期首残高	1,958
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 11,124

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 国庫補助金等の受領により、固定資産の取得価額から控除した圧縮記帳額

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
建物及び構築物	23百万円	23百万円
その他	16百万円	16百万円
合 計	40百万円	40百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
給料	3,293百万円
賞与引当金繰入額	548百万円
水道光熱費	552百万円
賃借料	1,319百万円
減価償却費	1,154百万円
ポイント引当金繰入額	549百万円
退職給付費用	47百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
現金及び預金	11,124百万円
現金及び現金同等物	11,124百万円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間（自 2020年3月1日 至 2020年8月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月27日 定時株主総会	普通株式	434	22	2020年2月29日	2020年5月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(有価証券関係)

その他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

その他有価証券

前連結会計年度（2020年2月29日）

（単位：百万円）

	取得原価	連結貸借対照表 計上額	差額
株式	7	5	△2
計	7	5	△2

（注）上表には、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は含めておりません。

当第2四半期連結会計期間末（2020年8月31日）

（単位：百万円）

	取得原価	四半期連結貸借対照表 計上額	差額
株式	7	5	△2
計	7	5	△2

（注）1. 上表には、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は含めておりません。

2. 当第2四半期連結累計期間において減損処理を行い、投資有価証券評価損400百万円を計上しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	98円47銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	1,943
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,943
普通株式の期中平均株式数 (株)	19,740,219

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年10月7日

株式会社薬王堂ホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後 藤 英 俊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 澤 義 典 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社薬王堂ホールディングスの2020年3月1日から2021年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年6月1日から2020年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社薬王堂ホールディングス及び連結子会社の2020年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注） 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。